

2021年度 学校関係者評価

【専修学校ガイドライン 及び ISO29993・21001 を踏まえた評価】



学校法人シモゾノ学園
大宮国際動物専門学校

【2021年(令和3年)8月31日】

1. 学校関係者評価委員会の概要

■ 学校関係者評価委員

- | | |
|---|---------------|
| <input type="checkbox"/> 市川 陽一朗 氏 (公益社団法人 日本動物病院協会 副会長) | 企業等評価委員 (委員長) |
| <input type="checkbox"/> 齊藤 勉 氏 (多摩地区 高等学校 進路指導協議会 顧問) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 國分 達夫 氏 (東京実業高等学校 校長) (東京都立 晴海総合高等学校 元校長) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 遠藤 邦彦 氏 (府中えんどう動物病院 院長) | 企業等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 出口 彩香 氏 (卒業生) (株式会社ユアペティア ドッグトレーナー マネージャー) | 卒業生等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 青木 りえ 氏 (保護者) | 保護者等評価委員 |

■ 2021年度 第1回 学校関係者評価委員会

- 2021年7月9日(金) 15:00から17:00 【 国際動物専門学校 会議室 】
 - ① 開式の辞
 - ② 学校関係者評価の概要説明
 - ③ 委員のご紹介
 - ④ 委員長の選任
 - ⑤ 自己点検・評価のご報告
 - ⑥ 意見交換等
 - ⑦ 次回までの流れ
 - ⑧ 閉式の辞

■ 2021年度 第2回 学校関係者評価委員会

- 2021年8月31日(火) 15:00から17:30 【 大宮国際動物専門学校 会議室 】
 - ① 開式の辞
 - ② 学校関係者評価のまとめ
 - ③ 学校関係者評価のまとめを踏まえた、意見交換等
 - ④ 閉式の辞

2. 教育理念 及び 教育方針 について

■ 教育理念

「心を大切に 感謝の気持ちで自然を思い 人と動物の真の共存共生」

■ 教育方針

- 専門性の追求
「動物を取り巻く環境をしっかりと理解し、動物業界で求められる知識・技術を追求し、戦力となる人財を育成します。」
- 道徳性・人間性の育成
「感謝の心を失わず、挨拶をはじめコミュニケーション能力の高い、品格の備わった人財を育成します。」
- 動物福祉の実践
「動物の生命 及び 尊厳を守る精神を養い、自然・環境・動物との共存共生を実践し、広く社会に貢献できる人財を育成します。」

3. 重点的に取り組む事項 について

■ 教育関連事項

- 教育課程編成委員会等を通し、教育目標・教育課程等の検証と改善を行い、教育の質の向上を行う。
- 学生が学習成果を適切に得られるように、教育の仕方等の検証と改善を行い、教育の質の向上を行う。

■ 学校運営関連事項

- 入学対象者の情報の受け方に合わせた、学生募集の仕方の検証と改善を行い、入学定員を満たす。
- 教職員が主体的・効率的に職務に取り組めるよう、学校運営の仕方の検証を行い、改善に活かす。

4. 評価方法 及び エビデンス について

■ 評価は、4段階で行う。

- 評価項目に対し、専修学校ガイドライン 及び ISO29993・21001 を踏まえた評価指標に則って評価を行う。
- 【3-15】・【4-4】・【5-9】・【11-1】について、本校の取り組み指針を踏まえ、本校は評価指標の3評価を4評価とする。
- 【3-17】・【6-7】・【8-3】・【9-4】について、評価指標の最高値は3評価までであるが、表記は4評価とする。

■ エビデンスは、評価の根拠となる資料を多くて3つ程度まで選ぶ。

1. 教育理念・目標		評価	エビデンス
1-1	学校の理念や社会のニーズを反映する教育目的・育成人財像は明確に定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか。)	4	学則、学校案内書、教育課程編成委員会 議事録
1-2	学校における職業教育の特色は明確になっているか。	4	学校案内書、教育課程編成委員会 議事録
1-3	学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか。	4	学生の手引き、保護者会 案内・説明PP・レジュメ、学校関係者評価委員会 議事録

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組みについて
→ 【1-2】(4/4評価)について、社会・企業等が求める人財像をより把握できるように、情報収集・整理がより良くなるように取り組みを継続する。
- 【1-3】(4/4評価)について、保護者への周知をする機会と質を向上できるように取り組みを継続する。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所について
→ 【監査を行った者】チーム④ 【監査を受けた者】チーム③
→ 【監査日時】2021年6月8日(火) 14:00 ~ 15:00 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目について、適切な評価が行われている。
- 【1-3】(4/4評価)について、エビデンスの一部変更を提案する。

2. 学校運営		評価	エビデンス
2-1	教育方針や教育目標等に沿った運営方針が策定されているか。	4	教育計画(看護系学科)、教育課程編成委員会 議事録、教職員研修日アジェンダ
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。(教務・財務の意思決定システム制度は整備されているか。)	4	寄附行為、理事会・評議員会 議事録、学園本部会議 議事録、組織分掌図
2-3	学校運営に関する(事業計画・予算編成・教育活動等)に対する評価を結論として取りまとめた評価報告書を作成しているか。	4	学校関係者評価 報告書、学校HP(画面の画像)、教職員研修 資料(兼任教職員 全体会 2019年度・2021年度)
2-4	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、人事・給与に関する規程も含め、有効に機能しているか。	4	寄附行為、組織分掌図、就業規則、理事会 議事録
2-5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	学校運営指針、組織分掌図、学校関係者評価 報告書
2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	学校関係者評価 報告書、学校HP(情報公開ページ 画面の画像)

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム④
 - 【監査日時】2021年6月8日(火) 14:00 ~ 15:00 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【2-2】(4/4評価) について、エビデンスの一部追加を提案する。
 - 【2-3】(4/4評価) について、エビデンスの一部追加を提案するとともに、自己点検・評価の対象期間である2020年度の特異な状況を踏まえ、2019年度と2021年度の取り組み実績をもとに4評価としたことを確認した。

3. 教育活動		評価	エビデンス
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	教職員クレド、学校案内書、学生の手引き
3-2	教育理念・育成人財像・業界のニーズを踏まえ、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	カリキュラム、学生の手引き、情報公開(様式4)
3-3	教育理念・到達目標に沿って、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	カリキュラム、学生の手引き、情報公開(様式4)
3-4	講義 及び 実習 に関するシラバスは作成されているか。	3	シラバスのまとめ、コアカリキュラム、教育課程編成委員会 議事録
3-5	学生によるアンケート等をもとに、適切に授業評価を実施しているか。	4	授業参観評価表、授業アンケート(学生)、学外研修アンケート(学生)
3-6	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか。(教育内容及びその評価方法・手段・スケジュールは適切か。)	4	授業参観評価表、授業参観スケジュール
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	学校関係者評価委員会 議事録、教育課程編成委員会 議事録、企業連携実習 評価表
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	学生の手引き、校長会議(進級・卒業判定用データ)
3-9	人財育成目標の達成に向け、各授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	学校運営指針(コアコンピテンシー)、教職員 コンピテンシー
3-10	動物看護職関連分野との連携による優れた教員(専任・兼任共に)を確保するための活動が行われているか。	4	教育課程編成委員会 議事録、企業連携研修 契約書・報告書・評価表、学校HP(教職員募集)
3-11	関連分野における先端的な知識・技術等を習得するための研修や教員の指導力育成等の資質の向上のための取り組みが行われているか。	4	企業連携研修 契約書・報告書・評価表、教職員研修 報告書
3-12	カリキュラムは、自主学習を含む学習時間・学習方法を学生の生活時間や学習時間に配慮して設計されているか。	3	カリキュラム、学生の手引き、年間スケジュール
3-13	講義に関し、定められたカリキュラム 若しくは それに準じたカリキュラムが実施されているか。	4	カリキュラム、コアカリキュラム、情報公開(様式4)
3-14	実習に関し、定められたカリキュラム 若しくは それに準じたカリキュラムが実施されているか。	4	カリキュラム、コアカリキュラム、情報公開(様式4)
3-15	講義・実習等の受講前に学生の能力等に不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか。	4	募集要項、入試面接(入試記録)、学生の手引き
3-16	動物を使用する実習・実験等に関し、これらに関する倫理や動物の福祉についての規則やマニュアルが整備され、公表されているか。	4	学校飼育動物管理規程、学生の手引き、学校HP(教育理念)
3-17	学生の成績情報等への閲覧制限が適切に設定されているか。	4	個人情報管理区分、みんなで取り組む個人情報の管理、学籍管理

【 自己点検・評価 】

① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について

→ 【3-4】(3/4評価) について、各授業の開始時に各授業科目の概要についてを説明しているが、掲出物であるシラバスのまとめに本評価項目の4評価に求められる内容の記載が不足していたため、記載する。

→ 【3-12】(3/4評価) について、各授業の開始時に各授業科目の概要についてを説明しているが、掲出物であるシラバスのまとめに本評価項目の4評価に求められる内容の記載が不足していたため、記載する。

② 特記事項

→ 特になし。

【 内部監査 】

① 参加者名 および 実施日時・場所 について

→ 【監査を行った者】チーム① 【監査を受けた者】チーム②

→ 【監査日時】2021年6月8日(火) 14:00 ~ 15:00 【場所】IAC東京校 会議室

② 監査結果

→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

→ 【3-10】(4/4評価) について、教育の質の向上に向け、学生の学習成果がより高められる教職員を整えるべく、教職員研修の拡充等の取り組みを提案する。

→ 【3-15】(4/4評価) について、エビデンスの一部変更を提案する。

→ 【3-16】(4/4評価) について、規程を踏まえた取り組みの質の向上を提案する。

4. 学習成果		評価	エビデンス
4-1	年度末における就職率の向上が図られているか。	3	就職率データ(過去3年間)、保護者会資料
4-2	資格取得率の向上が図られているか。	4	統一試験補講スケジュール、美容系学科会議 議事録、美容実習 春期講習参加者リスト
4-3	入学者に対する卒業率はどうか。	3	情報公開(様式4)、事業計画 PDCA会議(学習成果状況報告データ)、卒業率向上会議 議事録
4-4	在校生の社会的な活動に対し、それを把握し、評価する体制があるか。	4	学生の手引き、ボランティア 案内書、ボランティア 参加者リスト(ボラドリ・アクアリウム東京)
4-5	学生の学習成果の評価に際して、育成する人財像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか。	4	学生の手引き、校長会議(進級・卒業判定用データ)
4-6	教育・訓練 及び 実習 等を委託する場合、その目的・要望事項・評価項目等の依頼を明確にしているか。	4	企業連携実習 契約書、実習依頼状、実習評価表
4-7	動物看護総合実習等の企業と連携した実習について、依頼先と十分なコミュニケーションをとり、その内容・評価方法を事前に定め、評価しているか。	4	学外インターンシップ実習 依頼書・評価表、企業連携実習 依頼書・評価表、

【 自己点検・評価 】

① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について

→ 【4-1】(3/4評価) について、4評価の評価指標である、就職希望者に対する就職決定者数が過去3年実績でほぼ100%であることを満たしていないため、就職率を向上させる取り組みをより強化する。

→ 【4-3】(3/4評価) について、4評価の評価指標である、入学者に対する卒業率が過去3年実績で95%以上を満たすことができているため、卒業率を向上させる取り組みをより強化する。

② 特記事項

→ 特になし。

【 内部監査 】

① 参加者名 および 実施日時・場所 について

→ 【監査を行った者】チーム① 【監査を受けた者】チーム②

→ 【監査日時】2021年6月8日(火) 14:00 ~ 15:00 【場所】IAC東京校 会議室

② 監査結果

→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

→ 【4-1】(3/4評価) について、就職率を判定する時期等の基準を再検討する提案を行うとともに、卒業生への就職サポートの質の向上により取り組むことを提案する。

5. 学生支援		評価	エビデンス
5-1	進路や就職に関する支援体制が整備され、学生や保護者等に周知されているか。	4	学生の手引き、学内企業説明会リスト、保護者会 資料、学科教室掲出物（就職ボード）
5-2	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。	4	年間スケジュール（健康診断スケジュール）、提携病院 契約書、救急技能講習 受講リスト
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	募集要項、学生の手引き、下園龍二記念 奨学生（名簿）
5-4	学生相談に関する体制は整備されているか。（相談窓口が設置されているか。）	4	カウンセリングルーム 案内、カウンセリング記録、学生相談 報告書
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	学生の手引き、課外活動・サークル活動申請書
5-6	学生の生活環境への支援体制は整備されているか。	4	学校案内書（学生会館案内・学生マンション案内）、学校運営指針
5-7	保護者との連携は適切に行えているか。	4	学校運営指針（問い合わせ対応の指針）、保護者会案内書、学校HP（在校生用ページ）
5-8	卒業生への支援体制は整備されているか。	4	卒業教育セミナー 案内書、学校HP（卒業生向け求人票ページ）、学校関係者評価委員会議事録
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	募集要項、学校運営指針
5-10	高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取り組みが行われているか。	4	職業体験受け入れ関連書類、ヒューマンキャンパス高校 授業連携契約書、桜木小学校 アンケート

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム②
→ 【監査日時】2021年6月8日(火) 15:00 ~ 16:00 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。今後の取り組みとして、学生の手引きの拡充等を通し、学生支援の質をより向上すべく取り組むことを提案する。
→ 【5-1】(4/4評価)・【5-3】(4/4評価)・【5-6】(4/4評価)・【5-8】(4/4評価)・【5-9】(4/4評価) について、エビデンスの一部追加・変更を提案する。
→ 【5-3】(4/4評価) について、経済的な支援制度の効果を検証し、必要に応じた取り組みができるように提案する。

6. 教育環境		評価	エビデンス
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか。	4	施設使用割当て表、組織分掌図
6-2	防災に対する体制は整備されているか。	4	災害対応マニュアル、防災・避難訓練実施要項、防災・避難訓練報告・改善書
6-3	実習室には検査に必要な設備が整備されているか。	4	施設使用割当て表、教育機器備品管理台帳、予算書
6-4	動物に協力してもらえる実習室 及び 必要な動物 が備わっているか。	4	施設使用割当て表、動物管理台帳
6-5	自己学習に必要な図書室 ないし 図書スペース 及び コンピューター が利用できる環境が整備されているか。	4	校舎案内データ、図書管理台帳、学生ラウンジ・図書室 利用規定
6-6	学校の施設や備品等は、定期的に管理・点検されているか。	4	修繕・備品等 中長期計画データ、予算書
6-7	実習室等の学校施設や設備の利用割当て（スケジュール管理）が明確になっているか。	4	施設使用割当て表
6-8	海外研修制度はあるか。また、その際の学生への指示・教育は十分に実施されているか。	4	海外研修 案内データ（2019年度・2020年度）、海外研修 報告・改善書（2019年度）

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム④
 - 【監査日時】2021年6月8日(火) 16:00 ~ 16:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【6-6】(4/4評価) について、エビデンスの一部追加を提案する。
 - 【6-8】(4/4評価) について、エビデンスの一部追加を提案するとともに、自己点検・評価の対象期間である2020年度の特異な状況を踏まえ、2019年度の取り組み実績をもとに4評価としたことを確認した。

7. 学生の受け入れ募集		評価	エビデンス
7-1	学生募集活動は適正に行われているか。	4	学校案内書・募集要項、入試・学費説明会説明PP、情報公開（様式4、プライバシーポリシー）
7-2	学納金は妥当であるか。	4	情報公開（財務）、学費の比較資料
7-3	特別な対応が必要な学生への対応を定め、共有しているか。（身体的事項や精神的事項等）	4	入学相談室対応マニュアル、留学生対応マニュアル、進学相談カード（カルテ）

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム④ 【監査を受けた者】チーム③
→ 【監査日時】2021年6月8日(火) 14:00 ~ 15:00 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

→ 【7-2】(4/4評価) について、学費の比較を適宜行い、それらの情報も活かした学校運営を行うことを提案する。

8. 財務		評価	エビデンス
8-1	中・長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4	情報公開（財務）
8-2	予算や資金収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	監査報告書、理事会・評議員会 議事録、情報公開（財務）
8-3	財務について、会計監査が適正に行われているか。	4	監査報告書
8-4	財務情報の公開の体制整備はできているか。	4	財務情報公開規程、学校HP（画面の画像）

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム④
→ 【監査日時】2021年6月8日(火) 14:00 ~ 15:00 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。

9. 教育の内部質保証システム		評価	エビデンス
9-1	法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされているか。	4	監査報告書、官報（職業実践専門課程の認定）
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3	個人情報保護規程、個人情報保護規程に関する事前確認リスト
9-3	自己点検・評価の実施と課題の改善を行っているか。	4	自己点検・評価委員会 議事録、学校関係者評価 報告書、学園本部会議 議事録
9-4	自己点検・評価の結果を公開しているか。	4	情報公開（自己点検・評価の報告）
9-5	教職員の職務記述書を作成し、これらを適切な期間ごとに見直ししているか。	4	職務記述書、教職員面談記録（SCシート）
9-6	評価目標 及び 想定される評価範囲 を整理し、記述できているか。	4	授業参観評価表 一覧、授業参観評価表（講義形式・実習形式）
9-7	教職員に対する評価方法・スケジュール・評価の仕方等が書類として文書化されているか。	4	学校運営指針（GB）、学園 年間スケジュール

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 【9-2】(3/4評価) について、評価指標の評価4には該当しているが、教職員個々の個人情報の取り扱いが正しく行われているかの確認を目指し、改善が必要な場合は適切な取り組みを行う。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム①
 - 【監査日時】2021年6月8日(火) 14:00 ~ 15:00 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【9-7】(4/4評価) について、授業参観の実施方法やフィードバック方法等の質の向上を通し、学生が学習成果をより高められる授業が行えるように取り組むことを提案する。

10. 社会貢献・地域貢献		評価	エビデンス
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動の奨励や支援、地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等を含む。）の受託等を積極的に実施しているか。	4	生涯教育・社会貢献計画、桜木小学校ふれあい動物園 報告書・アンケート

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム②
→ 【監査日時】2021年6月8日(火) 15:00 ~ 16:00 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

11. 国際交流		評価	エビデンス
11-1	留学生の受入れや派遣について、計画的に活動するとともに、在籍管理等において、適切な手続き等を行っているか。	4	留学生用募集要項、入国管理局への報告書

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム④
→ 【監査日時】2021年6月8日(火) 14:00 ~ 15:00 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

→ 【11-1】(4/4評価) について、エビデンスの一部追加を提案する。

- 國分 達夫 氏（東京実業高等学校 校長）（東京都立 晴海総合高等学校 元校長） 【 高校等評価委員 】
- 下園理事長から先ほど、取り組み始めた当初は4評価ばかりではなく整っていない部分も多かったというお話がありましたが、私もこの委員会に関わり始めた頃は、シラバスの在り方や整え方等のお話をさせていただいたこともあり、着々と学校運営が整ってきている印象を持った。
先ほどの話し合いの中で、「他校との差別化をどのように図っているのか」という質問に対して、資格試験の合格率の高さ、合格率 100%の達成という点を伺ったので、私が大学教育に携わっているときに人間の看護学部を立ち上げた際の経験したことをご紹介すると、1期生の国家資格合格率は全国平均をはるかに上回る好成绩で外部評価も高かった。しかし、2期生の合格率は全国平均を下回る結果となってしまう、全国の多数の大学を含めた教育機関においてその試験結果から序列がはっきりと並べられ、たった1回の試験結果によって、当初は高かった外部評価が一変する経験を味わった。看護学科に対する外部評価が他の学部の外部評価にも繋がり、また学校全体としての評価に繋がってしまった経験から、大変に怖いものだと記憶している。2期生の試験結果はたまたまの要因が重なっただけかもしれないが、やはり学校を挙げて取り組むこと、1人1人の取り組みが大切であると感じている。その一方で、管理栄養士の試験に関わる経験としては、毎年100名以上が受験してほぼ全員が合格しており、外部評価は常に高い状態を維持していた。そのようなことから、資格試験の合格率への取り組みを教職員間で共有し、一丸となって取り組むことはとても大切なことと思うので、引き続きのよい取り組みを期待する。
 - イヌの扱いが上手であったり、動物への接し方が優しい、また、コミュニケーション力が高いといった卒業生の評価を受けていることを伺い、高い人間性を持った学生を着実に育てていることはとても大切なことであると考える。
 - 【3-10】動物分野の専門的知識・技能を持った人材を確保しつつ、その人材を教職の専門性を備えた教員に育てる必要があり、教職の専門性を備えた教員を育てることは容易なことではなく、学校として組織だった取り組みが必要と考えます。
 - 【3-12】質問の意図がよく分かりませんが、評価項目の文中にある「自主学習を含む学習時間・学習方法」について、自主学習を習慣化させるには教員間の連携を深めて、粘り強く、丁寧な指導が求められると考える。
 - 【4-1】就職率の向上はとても重要なことであると考えているが、それとともに、カリキュラムで学んだことをどのように活かして就職したのかというような就職の質をアピールすることも重要であると考えている。
 - 【5-10】貴校の教育方針にある「専門性の追求」という視点からも、入学者が備えるべき目的意識を高校等との連携を深めて育成する必要があると考える。「なんのために入学するのか」「何に向かって、何を学ぼうとするのか」をしっかり考えさせることが重要である。
 - 学校関係者評価委員会に関わって数年が経過するが、初期の頃に比べて4評価が多くなった印象を持った。本取り組みを踏まえ、学校経営や学校運営が具体的にどのように変化してきたかをお教えてください。
 - 他の委員のご意見を伺った中でも、離職率についての課題が1つのキーワードであろうと感じた。これは、就職先の労働条件等だけでなく、キャリア教育が大事であると考えている。私が保育系の大学に勤務していた時、入試面接においてキャリア教育を十分に受けていない学生の志望動機として、「子どもがかわいいから。子どもが好きだから。」という理由が中心であった。しかしながら、保育士の仕事の本質は、「子どもの命を預かることの大切さや使命感をしっかりと」とあり、その意識を持った学生とそうでない学生の差が激しかった。このことは、専門学校だけでなく、高校においてもキャリア教育を実践し、目的意識を育てて上級学校につなぐ取り組みが大切と考える。趣味と仕事を混同しないように、キャリア教育を通じて業界のことをしっかりと知り、自分が今後どのような業界で活躍したいのかを理解させる内容を教育課程に組み入れ、自己理解や職業理解を広げて深めることが大切である。

■ 齊藤 勉 氏（多摩地区 高等学校 進路指導協議会 顧問）

【 高校等評価委員 】

- 高校の現場では、大学共通テストを契機に情報についての科目が試験問題に加わったが、教員の中で情報を受けている者は非常に少なく、大規模な学校でない1つの学校で情報だけを担当する教員を確保することが難しい状況であり、特に地方の学校では講師の教員が教育を担うこととなったり、教員の確保はとても大切なことと考える。
動物分野においても、新たな国家資格ができたことを踏まえ、各専門学校や各大学がどのような教育を行っているのか問われるとともに、合格率の高さも求められることから、どの教育機関においても一定の教員の質が保たれるように注力されることを期待する。
- 大よその評価項目の評価が4段階中の4になっており、これ以上を目指すことは難しいとは考えるが、1つ、他校との連携がキーワードになると感じた。
先般、東京都高等学校進路指導協議会での研究会に参加したが、その中である学校が授業評価に対して強いこだわりを持っている話があった。その研究会には、その学校の競合となる様々な学校も参加していたが、自身の学校の成績評価やシラバスの取り組み等を隠さずに発表しており、その学校の取り組みを高校が知り得たことだけでなく、競合他校にとってもよい刺激となったのではないかと考える。学校独自の取り組み等のなかなか公表しづらい情報もあるかと思うが、あえて情報を出すことによって、お互いの学校にとってより良い相乗効果が得られるケースもあると思慮するので、そのような取り組みをされることも期待する。
- 【3-4】・【3-12】シラバスの内容や自主学習を含むカリキュラムの設計については、先述のとおり他校・他分野のものも参考にできると考える。発表をされていた学校においても、自主学習させることはなかなか難しいとの思いを吐露されていたが、だからこそ自主学習に向かわせる仕掛けが求められていると考える。
- 【4-3】使命感を持って入学する看護・医療系の専門学校でも卒業率100%は難しいと聞いている。特に昨年は新型コロナウイルス感染症対策のため、入学時に授業が行えなかったことでスタートにつまづいてしまった学生が例年以上にいて中退したという専門学校があった。また、製菓の専門学校では、「趣味の延長なのか、職業にしたいのか」の見極めが中途半端のまま入学し、結局は中退や未就職に繋がっていると聞く。
卒業率100%は理想だが、理想は理想として近づく取り組みや仕掛けに諦めずに取り組んでいただければと思う。内容の薄い教育をして「学校生活の満足度の低い」卒業をさせても、結局は本人のためにはならないのではないかと考える。
- 今後について、ある専門学校の担当者から学校評価について貴校ほどの取り組みはしていないと聞いたことがある。一方、同系統の別の専門学校は教職員が頻繁に退職し、評価する体制を構築できないのではと思った。その意味で貴校はやはり「老舗」であると感じている。
「老舗」は、守旧という意味ではなく、万古不易の部分と常に新しいことに取り組む、その両者を持ち合わせているという意味である。四半世紀ほど前、多摩地区高等学校進路指導協議会でトリマー系の無認可校を含む学校の研究会を企画した時、参加する学校の方々は教育に思い入れがあり、全員揃っての討論は止めた方がよいというアドバイスをされた。実際には穏やかに進んだのだが、各校の教育の隔たりを感じた。
動物分野の学校が対立するのではなく、切磋琢磨して教育の向上にあたる日は来るのかと暗澹たる気持ちになった。しかし、動物看護師の国家資格化等の状況の変化の中で貴校は老舗の専門学校として先頭に立って動物系専門学校の教育の向上という役割が果たせると思う。特に、理事長が仰る卒業生という「宝」も強力な後ろ盾になると信じている。
- 高校教員の立場からすると、教職員室に在室していた教職員が立ち寄った学生の長所等を口々に回答されたという保護者からのお話を受け、こういった姿勢・取り組みは、一朝一夕に出来ないことですので、日頃の教育活動や教職員間の連携の賜物であると考えます。また、こういった点が、貴校の学校の雰囲気象徴する強みのお話であると感じたので、今後の更なる充実に期待する。
- 中退者について、高校において、進学先の学校は良い学校であるから続けてもらいたいと思っても、学生がそこまでのレベルに自分が到達できないことで辞めてしまう惜しい事例もある。中退といっても、ただ人数の側面だけでなく、通学を続けたいが自分の力では難しいと自己理解する等のある種の納得感のようなものが中退の過程に関わっていたかも大切であり、是非ともそういった経緯で中退した学生へのフォローをされることを望む。
- SNSの利用について、これは取り組まないと厳しいものがあると感じる。また、他校との協力体制の充実については、特に動物分野全体の向上を図るためにも、積極的な取り組みを期待する。
- 昨年度に問題となった事例を挙げると、指定校推薦で不合格判定となり、そのことに高校が猛反発したことがあった。多摩高進としても、これに対応すべくその学校に申し入れを行い、教職員が手分けして各高校に直接出向いて謝罪をすることで、この問題を収めることができた。この事例からも、問題を事前に防ぐことも大切だが、迅速且つ機敏に反応してくれる学校なのか、そうでないのかも気になることである。今後とも、学生ファーストで諸々の対応をお願いする。

■ 市川 陽一朗 氏 (公益社団法人 日本動物病院協会 副会長)

【 企業等評価委員 】

- 動物看護系学科は国家資格に向けた教育を行っていく中で何か取り組みを変更したり、工夫をしていることがあればお教えいただきたい。また、獣医学部を持つ大学等が新たに動物看護系学科を設けようとしている話しを耳にするが、それに対する対策等をお伺いしたい。
- 新たに大学等が参入をしてくるかもしれないが、ライバルとしてだけでなく、逆に協力関係をきずく試みはどうかあるか。貴校ならではの、トレーニングやトレーニングといった強みを活かし、競合校の強みと補い合って教育を行うことも選択肢の1つかと提案する。
- 愛玩動物看護師の国家試験について、移行当初は各校ともに比較的高い合格率が予想され、差が生まれないと予想しているが、数年後には学校間格差が出るかもしれない。資格試験の合格率だけでなく、教育の質や卒業生の評価等が今よりも顕著になると思われる。教員資格等の設定にも対応する必要があると思うし、実習も何人で1グループとするか等の質も評価されると考える。大学や他業種専門学校等との教員の相互派遣を含めた提携等を検討することを提案する。また、現状を把握していないが、最低限のITスキルや接遇も必要と考えるし、学校によってはカリキュラムを設けて民間の資格等を取得しているようである。現在、業界トップと思うが、更なるブラッシュアップを期待する。
- 就職サポートについて、私の動物病院では教育を主とする企業実習の受け入れは中止しているが、就職を主とする企業実習は受け入れを行っている。就職活動は、学生にとっても動物病院・企業にとっても重要な取り組みである。現在では、WEBを用いての合同企業説明会が増えている。JAHAや千葉県獣医師会主催のWEB型の合同企業説明会も開催しており、学生は自宅にいながらも複数の企業を知るきっかけにもなっているのが有効な手段と考える。また、離職率については、処遇・待遇等にて発展途上の点も多々あったが、現在では企業内のコンプライアンスや労働条件等についてを確認し、業界として改善が進んでいる。このような合同企業説明会はそれらの取り組みや労働条件等が横並びで比較できるので学生にとっても有益であるし、業界全体が一律に向上する機会にも寄与していると思慮する。

■ 遠藤 邦彦 氏 (府中えんどう動物病院 院長)

【 企業等評価委員 】

- 動物理学療法教育等の様々な特色が貴校にはあるが、最近の中で貴校が特に注力されている内容はどのようなものか。
- 多くの方が目にされる学校HPにおいて、各学科の目的や特徴、学校施設や様々な機材の揃った実習室、日本国内だけでなくアメリカ・イギリス・オーストラリアそれぞれ動物分野先進国への海外研修等が分かりやすく情報発信されていることに加え、下園理事長が動物分野の様々な方と積極的に対談されて交流・親交を図っていることを拝見し、引き続きの取り組みを期待する。
- コロナ禍において、学外実習の企業の受け入れ状況が現状どのようなかをお伺いしたい。
- 就職・採用活動について、動物病院の中には、求人を出しても誰も問い合わせや実習の申し込みがないということをよく耳にする。特に、郊外の動物病院は切実な問題となっている。新卒者の採用活動においても、当院には、人材紹介会社から毎日数件の動物看護師紹介に関するFAX・電話を受けている。人材紹介会社からの採用活動では、高額な紹介料や給料の一部を人材紹介会社に支払う等の経済的な負担が発生してしまう。動物病院の中には、このような企業を経由してでないと、採用活動ができないと考えている院長も多いはず。これは、動物看護師だけでなく新卒獣医師にも当てはまるようであり、新卒獣医師は就職紹介会社に青田買いされ、登録した学生は人材紹介会社を通さないと就職ができないところもあるようである。専門学校での就職活動においても、大きな会場での説明会実施や求人票一覧の冊子作成以外に、インターネットやSNS等を利用したものがあればよいと考える。例えば、希望地域や採用条件等が一目でわかり、学生・卒業生と動物病院をつなぐマッチングアプリのようなものがあれば双方の利点になるのではないかと考える。

■ 出口 彩香 氏 (卒業生) (株式会社ユアペティアドッグトレーナー マネージャー) 【卒業生等評価委員】

- 様々な学校の色々な学生をインターンシップ実習にて受け持つ中で、貴校の学生は圧倒的にイヌの扱いが上手であると感じる。他校ではイヌと接する時間はあるが、専門的にトレーニングを学ぶ授業は選択制の授業としている学校もあるようで、学生間の習熟度にばらつきがある印象である。しかし、そのような学校の中でもよい部分はあり、例えば、今の現場で流行している内容等の現場目線で求められる教育を実践している学校が見受けられ、働いている現場の社会人でも刺激になるような教育がされていると感じる。でも、だからこそ、貴校の学生の昔ながらの礼儀正しさや、コミュニケーションが取れることが際立つとも考えるので、引き続きの教育を期待する。
- 幸い、弊社におけるドッグトレーナーの離職率は低いが、トリマー等においては入れ代わりが目立つ現状である。社会人となって現場に立った時と描いていたイメージのギャップ「思っていたのと違った」ということを改善していく必要があると考える。学生と企業とのミスマッチが改善され、就職して長く活躍する学生がより多くなることを望む。
- 報告書から卒業生への支援体制が取られていると思慮するが、動物業界全体としては人材不足である中、離職率の高さが問題視され、改善の必要があると考える。卒業生の状況を把握することは難しいこととは思いますが、どのくらいの年数で離職していて、その主な理由は何かを明確にすることで新たな卒業生への支援方法が見えてくるかと提案する。
- 今回、学校関係者評価委員会に呼んでいただき、このような形で学校が自己点検をしながら学生にとっても保護者にとっても安心して学習に取り組める環境が整えられていることを知った。私自身、恥ずかしながらこのことを知らずにおりました。このようなとても素晴らしい取り組みをされていることが世間に認知されていないということをととてももったいことと感じる。現代のSNS文化をもっとも活用し、世間に周知させてもよいのではないかと思う。
- 学生の時を振り返ると、当時は就職に向けて勉強をする意識が強かったが、学生生活をしてゆく中で感じたことは、教職員の存在がとても身近な存在で、様々な話やサポートを沢山してくれ、学生と教職員との距離感が近かったことでの楽しい思い出が印象として残っている。ただ反面、仕事のための勉強をしている意識が学生生活を過ごすにつれて、薄れてきた経験があったことも思い出す。現企業への入社後は、「まずは奨学金を返しきるまでドッグトレーナーとして働く。家庭（保護者）に貢献する。」の意識を第一に取り組んだが、現在の若手社員を見ると、仕事をしていることへの意識が希薄していること、趣味と仕事が一緒になってしまっている等の問題点を散見する。離職者の中には、動物分野の仕事を選んだときに、「楽しい」が先に来ており、もっと勉強すれば良かったと後悔を述べる者がいることは、今後の課題と感じる。就職に向けた準備として、働くことへの意識付けや社会人としてのマナーを学生に身に付けさせることはより一層の充実が必要と考える。
- SNSの活用について、企業として現在どのような媒体で情報提供していくかを模索している段階である。例えば、Instagramであると絵や楽しいを連想させるイメージ、重要性の高い連絡の時には公式LINEで発信するイメージのように、その都度、何がベストかは模索している段階であるが、まずは必要な人に必要な情報が届くことを念頭において、目的と手段の整理を大切にしながら活用している。

■ 青木 りえ 氏 (保護者)

【 保護者等評価委員 】

- 2年生になった子どもは、この夏にも外部での実習を予定しているが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で実習に行きたかったところから断られてしまったと、なかなかやりたいことがやれなかったりする難しい状況であったと感じているが、今は学校もだいぶ落ち着いているようで、通常通りに学生が学べている良かったと思う。
子どもからの話しの中で、外部での実習を終えた後に、フィードバックが足りないのかなと感じることがある。前回の実習時は、実習後にすぐに春休みに入ってしまったため、実習後にクラスメイトと体験談を共有する機会がなかったようで、もったいない状況であると感じた。実習後の学生間での実習内容を共有することはとても有意義なものになると思う。実習期間や実習内容にばらつきがあり、一斉に行くことは難しいかと思うが、グループで体験記録を发表或、他の学生と意見交換や情報共有が行える機会があることを提案する。
どのような実習を行い、何を学び、どんな失敗をして反省してきたのか、職場の環境等を他の学生と報告・共有することにより、学内の学びだけでは得ることが難しい現場の雰囲気や疑似体験できる良い機会になるかと思う。私自身、看護学生時の数週間における病院実習では、毎日1時間ぐらいのカンファレンス・週末のケース紹介・実習後のケース発表と毎日が苦痛であったが、同じグループの仲間の発表はとても勉強になった。動物看護系学科は今年度より3年制になったことでカリキュラム的にいくらか余裕が生じるのであれば、このような取り組みも検討されることを望む。
- 評価項目の多くが最高位である4評価となっており、改善に向けて日々積極的に取り組んでいることが伺える。ただ、全ての項目を評価した3年前の状態が分からないため、この3年間で改善に向けて積極的に取り組んできた項目や評価の経年変化が分かる形だとさらに充実した報告になると考える。昨年度の報告は、評価した項目について、評価指標を含めた詳細な報告が多かったため、初回参加でも現状把握がしやすく感じたが、今年度の説明は全ての項目を評価した関係か、ややあっさりしており物足りなさを感じた。コロナ禍における学校運営や動物看護師の国家資格化に向けた動きも過渡期であり、様々な問題が山積みしていると思うが、各関係機関との連携を通し、学生がより良い学べる環境づくりに注力されることを望む。
- 昨年入学して1年余り経ち、新型コロナウイルス感染症の影響により登校ができない状況で始まった専門学校生活だが、何かと自分の中に問題を抱え込みやすい娘は、担任教員をはじめ多くの教職員の方々のサポートを受けながら、なんとか通学している。専門学校では珍しい担任制度やカウンセラーによるカウンセリング、手厚い就職サポートはとても良いものであると思う。
履歴書に記入する自分の長所が分からない、表現の方法が分からない、と助けを求めて教職員室に行くと、在室している教職員が口々にそれに応え、娘は嬉しくて感極まってしまったそうだ。そのような話を聞き、学生と教職員との距離感が近くアットホームな雰囲気を感じ、私自身もとても嬉しく思った。
実習先への電話連絡の練習の際にも、娘が自信を持てるまで何度も付き合ってくださいただでなく、実際に連絡をする際にはそばで見守りましてくださる教職員、オンライン面談の設定や練習等をこまめに対応して下さる教職員、娘の様子を日々見守り適宜声をかけてくださる教職員には感謝しかない。
これから、2回目の学外実習・就職活動・卒業に向けた単位の取得・資格試験の勉強と大詰め時期に入っていく、ますます教職員のサポートが必要になるかと思うが、来春には社会人として羽ばたいていけよう、自立していく力も徐々に身に付けていって欲しいと思う。あと8カ月間、よろしくお願いたします。
- コロナ禍において、濃厚接触者に特定されたことで長期間の自宅待機を余儀なくされた学生に対して、授業の遅れが不安である。元気だけれども学校に通えない学生に学校がどのような対応をされるかをお聞きしたい。